

## IBM Rational Application Developer for WebSphere Software Version 7.5

### ハイライト

- **迅速なビジュアル・デザインによりアプリケーション開発を加速します**
- **コーディング標準を適用してランタイム分析を行う自動化ツールによって、コードの品質を高めます**
- **Web2.0 開発用のフィーチャー、パターン、コード生成、各種ツールを提供します**
- **柔軟な開発環境である Eclipse3.4 を拡張し、生産性を最適化します**
- **IBM WebSphere Application Server および IBM WebSphere Portal Server 製品用の統合テスト環境を強化します**
- **ビジュアル・デザインの採用により技術習得にかかる時間を短縮します**
- **迅速な実装、テスト、配備およびチーム・コラボレーション機能により、効率化されたアジャイル・ソフトウェア開発を可能にします**

IBM Rational® Application Developer for WebSphere Software は開発者が高品質な Java™、Java Platform Enterprise Edition (Java EE)、Web、Web サービス、ポータル、サービス指向アーキテクチャ (SOA) ソリューション構築を迅速に行えるように支援します。この統合開発環境によって、アプリケーションの迅速な設計、開発、アセンブル、テスト、配置が可能です。

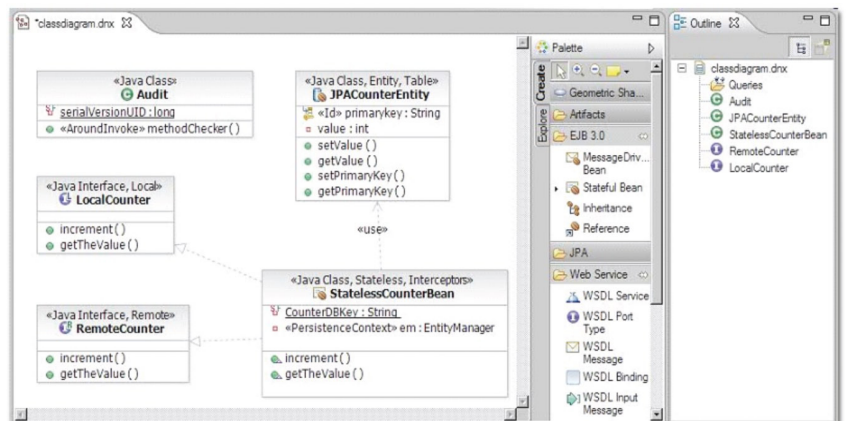
ビジュアル・ツールを用いて Java EE のプログラミング・モデルを抽象化し、手作業のコーディングを減らせるため、開発プロジェクトをより容易に、早く遂行することを可能にし、開発者はその労力をクリエイティブなソフトウェア・ソリューションに集中することができます。

**Java EE に対する広範なサポートにより、より早く、より良いコードを構築**

Rational Application Developer for WebSphere Software は、開発チームがより高い抽象度のレベルで作業することを可能にする、コード・モデリングとグラフィカル・コンストラクションを特徴とします。

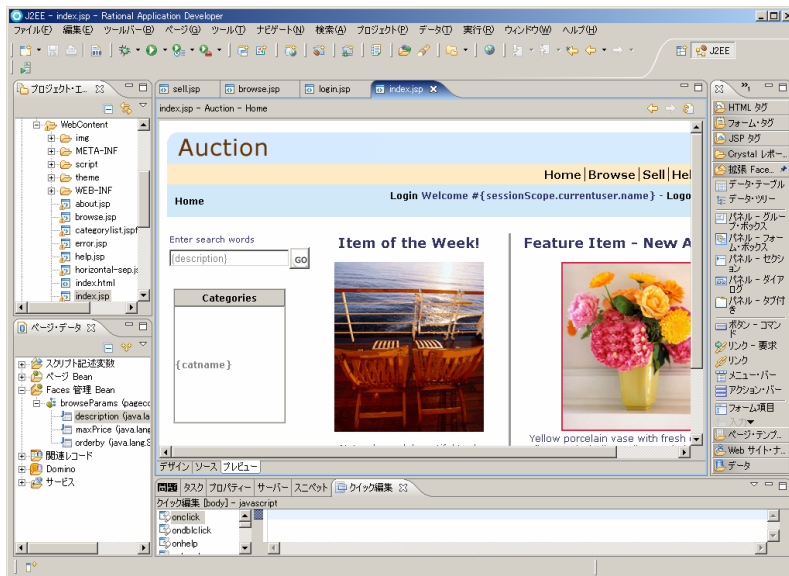
これらの機能は、チームがアプリケーションの開発でもっとも重要な面(例えば、振る舞い、設計、実装、チーム生産性と品質の向上)に集中することを助けます。

コード・モデリング・エディターによって Enterprise JavaBeans (EJB) やデータ・モデルを可視化し、自動的に内容が同期されるコード・ビューと切り替えて使用することができます。



Rational Application Developer のコード・モデリング・エディターを使ってEJBを参照、編集することができます





**Rational Application Developer for WebSphere Software のビジュアル・コンストラクションツールを使用することにより、リッチな Web アプリケーションを構築することができます**

## Web 開発を早め、Web2.0 機能を導入

使い易いウィザードとドラッグ・アンド・ドロップ操作で実質的に Web アプリケーション開発の全ての側面をカバーすることができます。— HTML,

JavaServer Pages (JSP)、

JavaServer Faces (JSF)、そして Servlets — 全てが共通のインターフェースにまとめられています。

Rational Application Developer for WebSphere Software は開発初心者にも上級者にも、その多様な技術的背景に合わせて、リッチなデータ駆動型アプリケーションを構築することを可能にします。先進の HTML/JSP エディターにより、ビジュアル編集モードとソース編集モードを駆使して機能の豊富な Web ページを開発することができます。

Rational Application Developer for WebSphere Software はクライアント・サイドとサーバー・サイド Web 開発のための最新の Web2.0 技術もまたサポートします。

Asynchronous JavaScript and XML (AJAX) と Dojo ツールキットは、ドラッグ・アンド・ドロップで利用できる

ウィジェット、コード・アシスト、バリデーション、リファクタリング・ウィザード等により強固にサポートされます。AJAX プロキシや様々なタイプのコンテンツ・フィードは Web2.0 アプリケーションのサーバー側でサポートされます。

## WebSphere プラットフォームのための自動配備とシステムテスト

Rational Application Developer for WebSphere Software は、IBM WebSphere Application Server Versions 6.0、6.1、7.0、および IBM WebSphere Portal Server Version 6.1 のテストサーバーを含み、これらのプラットフォームに配備するアプリケーションのテストやデバッグを強力に支援します。既存の WebSphere Application Server と接続することができるので、追加セットアップなしに特定のアプリケーションサーバー構成でテストを行うことができます。

(WebSphere Application Server がリモートであっても接続できます)

Rational Application Developer for WebSphere Software はビジュアル・ポータル開発ツールと WebSphere

ポータル・テスト環境もまた含みます。WebSphere ポータル設計機能を使用することにより、JSF コンポーネントの作成、ポータル・アプリケーションの編集をビジュアルに行うことができます。

**学習時間を短縮し、先進技術を適用**  
開発者は、絶えず最新の技術やプロセスと標準を適用するよう要求されます。高品質のソフトウェアを、より少ない時間と、より少ないリソース、短い納入サイクルで実現させるように求められます。

Rational Application Developer for WebSphere は実質的に、先進技術を使いながら現在の開発方法に留まるために必要な全てを提供します。

これは、最新技術をすぐに、その技術に習熟したり、あらゆるコンポーネントを手作業でコーディングしたりする必要なしに使い始めることができることを意味します。

ツールは使用技術に則したバリデーションとクイック・フィクスを提供し、特定のビューでアノテーションの追加を支援し、自動的に配備情報を生成するためにそれらのアノテーションに従って動作することができます。



## チーム生産性の向上

Rational Application Developer for WebSphere Software は、フレキシブルかつ一回で必要なセットアップを実行できる、Eclipse3.4フレームワーク上に構築されたインストールプロセスにより、必要なインストールオプションを選択してインストールすることができます。そればかりか、サード・パーティー製の Eclipse プラグインにより Microsoft® Windows® と Linux® システムにおいて機能を拡張することができます。IBM Rational Team Concert (IBM Jazz™ チーム・コラボレーション・プラットフォーム上に構築されています)との統合により、Rational Application Developer for WebSphere Software は、今日の地理的に分散したアジャイル開発チームを、広範なソフトウェアライフサイクル管理により支援するための基盤を提供します。この統合は、チームが要求や、開発・テストのタスクの追跡ばかりでなく、コードを変更管理システムにコミットし、アプリケーションのデバッグを行う「ライブ・セッション」における共同作業を可能にします。これらのパワフルな機能は、最新の変更をチーム内で共有することを容易にし、チーム・コラボレーションを支援します。

Rational Application Developer for WebSphere Software は IBM Rational CleaCase® および IBM Rational RequisitePro® とも統合することができます。蓄積された要求と連携する広範な変更管理を IDE 内から利用することを可能にします。

## 追加情報

IBM Rational Application Developer for WebSphere Software ソフトウェアの詳細については、IBM 担当者または IBM ビジネス・パートナーにお問い合わせいただくか、もしくは下記の Web サイトにアクセスしてください。

[ibm.com/jp/software/rational/products/design/rad/](http://ibm.com/jp/software/rational/products/design/rad/)

お問い合わせは、IBM ビジネス・パートナー、製品販売店、弊社営業担当員または、ダイヤル IBM (0120-04-1992)へ。受付時間：月～金 9:00～18:00(祝日 12/30～1/3を除く) 携帯電話でおかけのお客様は下記の電話番号をご利用ください。ダイヤル IBM 03-6220-8002(この場合通話料金はお客様のご負担となります。)

Copyright IBM Japan, Ltd. 2008  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒106-8711 東京都港区六本木 3-2-12  
Produced in Japan  
September 2008  
All Rights Reserved

IBM、IBM logo、ibm.com および Rational は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。これらおよび他の IBM 商標に、この情報の最初に現れる個所で商標表示 (® または ™) が付されている場合、これらの表示は、この情報が公開された時点で、米国において、IBM が所有する登録商標またはコモン・ロー上の商標であることを示しています。このような商標は、その他の国においても登録商標またはコモン・ロー上の商標である可能性があります。現時点での IBM の商標リストについては、[ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://ibm.com/legal/copytrade.shtml) の「Copyright and trademark information」をご覧ください。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における商標です。

Linux は Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

この資料で参照している IBM 製品またはサービスは IBM が現在事業展開している全ての国々での提供をお約束するものではありません。

資料に含まれる情報は、参照の目的でのみ提供されるものです。本資料に含まれる情報の完全性と正確性を検証しましたが、これらは「現状のまま」提供されるものであり、明示的または暗示的にいかなる保証もするものではありません。加えて、本資料は IBM の現在の製品計画を戦略に基づいており、IBM によって予告なしに変更されることがあります。IBM は本資料または他のあらゆる資料の使用に起因もしくは関連するいかなる損害に対しても責任を負いません。本文書に含まれる内容は、IBM またはそのサプライヤーもしくはライセンサーによるいかなる保証または説明も提供する、またはその効果があると見なされるものではなく、また IBM ソフトウェアの使用について規定し適用される使用許諾契約書の条項を変更するものではありません。